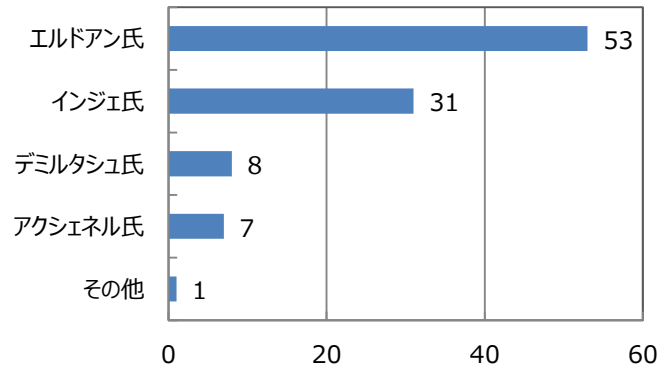


今日のトピック トルコ大統領選挙、エルドアン大統領が再選 大統領に権限集中、今後の政策運営に注目

ポイント1 エルドアン氏が再選 総選挙も与党勝利

- トルコの大統領選挙と総選挙の投開票が24日、行われました。現地の国営メディアによると、現職のエルドアン大統領が過半数の票（99%開票で53%）を得て、再選を果たしました。投票率は約87%と国民の関心の高さを示しました。
- また、総選挙でも、エルドアン大統領率いる公正発展党（AKP）と連合を組む民族主義者行動党（MHP）の議席数合計が過半数を上回りました。

【大統領選挙の得票率】



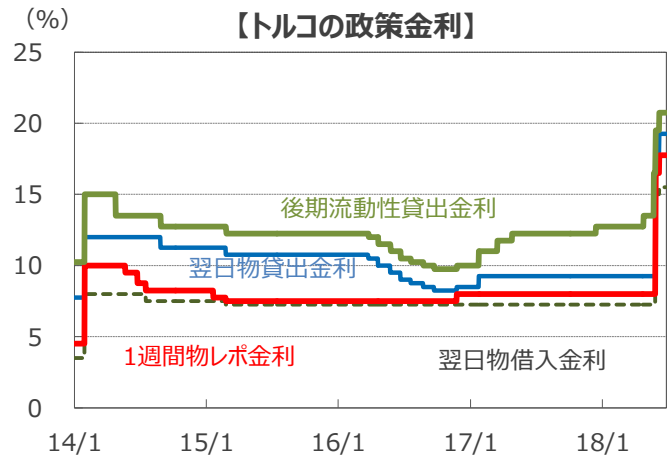
(注) 開票率99%の時点。

(出所) アナトリア通信のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 大統領に権限集中 政治は一旦安定

- トルコでは、2017年4月の国民投票で決定された憲法の改正により、今回の選挙を境に、首相を廃止して大統領に権力を集中させることが確定しています。
- 議院内閣制から大統領制に移行され、閣僚の任免、大統領令の発令、予算案の提出、議会の解散など、エルドアン大統領に権限が集中することになります。これを機に政治は一旦安定するとみられます。

【トルコの政策金利】



(注) データは2014年1月1日～2018年6月25日。

(年/月)

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 リラは今後の政策運営次第

- 通貨リラが下落を続けるなか、トルコ中央銀行は、6月7日の金融政策決定会合で、主要な政策金利である1週間物レポレートを1.25%引き上げ、17.75%としました。4月以降の利上げを合計すると、5.00%と（金融政策の枠組み変更分を除く）、エルドアン大統領からの反対にもかかわらず、リラの下落を止めるために大幅な利上げに踏み切りました。
- 一方、通貨安の一因である米欧との関係悪化については、エルドアン大統領の強権政治が続くことから、改善の目途が立ちにくい状況です。政治の安定はサポート要因となるとみられますが、リラの動向は、中央銀行の独立性が不透明なこともあり、今後のエルドアン大統領の政策運営次第と考えられます。

ここも
チェック!

2018年6月 8日 大幅に下落する一部新興国通貨（2018年6月）
2018年4月10日 注目される主要新興国通貨の動向

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。